

初島住彦* 日台産シヤリンバイ属の再検

S. HATUSIMA* : A Revision of the Genus *Raphiolepis* from
Japan and Taiwan

東亜のシヤリンバイ属を最初にまとめた人は中井猛之進で1924年 Jour. Arn. Arb. 5巻に東亜産として *R. major* CARDOT, *R. rugosa* NAK., *R. integerrima* HOOK. & ARN., *R. umbellata* MAK., *R. liukiensis* NAKAI, *R. salicifolia* LINDL., *R. indica* LINDL., *R. rubra* LINDL. の7種を認めている。

また P. METCALF は1937年南中国産のシヤリンバイ属の狭葉型6種(うち3種は新種)について論じている。これらの狭葉品に関しては METCALF が引用した標本を見ていないので何ともいえないが *R. hainanensis* METCALF を除く5種はおそらく *R. indica* の一種の狭葉型ではないかと考えている。*R. salicifolia* LINDL. と *R. lanceolata* HANCE の標本は見たことがあるが、これもやはり *R. indica* の極端な狭葉型と思う。METCALF は上記6種の狭葉品について検索表を作っているが、その分類拠点は中井の分類と同様葉の上面の主脈および網脈が突出しているかどうか、枝および芽が有毛か無毛か、葉が硬いか柔らかいかなどきわめて変化の多いまことにたよらない特徴である。最近筆者は台湾、琉球、日本本土、小笠原産のシヤリンバイを研究の結果上記の中井、METCALF が用いた分類拠点はきわめて変化に富み変種以下の区別価値しかなく、日本から台湾にかけてはただ一種 *R. indica* しか存在しないことを知った。従来日本には内地にシヤリンバイ(*R. umbellata*)を、小笠原と台湾の紅頭嶼にアツバシヤリンバイ(*R. integerrima*)を、沖縄にホソバシヤリンバイ(*R. liukiensis*)、台湾にインドシヤリンバイ *R. indica* の変種シマシヤリンバイ(var. *tashiroi*)とヒヒランシヤリンバイ(*R. hiiranensis*)があることになっていた。このうちホソバシヤリンバイはシヤリンバイの変種(var. *liukiensis*)にヒヒランシヤリンバイはインドシヤリンバイの変種(var. *hiiranensis*)にされた。一方中国南部から印度支那にかけては *R. indica* がある。これも台湾大学にあるかなり多数の中国産の標本や、印度支那産のシヤリンバイ類の図や記載から判断し、葉の形、小枝の太さ、花序の毛の有無、花の大きさ、果実の大きさなどに非常な変化があることが判った。

Vidal は印度支那の *R. indica* を次の4型に分けている。

1. 葉は全縁で大形、長さ10~16cm、幅3~5cm (var. *mekongensis* CARD. 型) ラオス北部産
2. 葉は全縁、大きさは6~10cm、幅3~4cm (var. *kerrii* GOD.) 北ベトナム、南ベトナム、カンボジア産
3. 葉は鋸歯縁、葉柄は長さ2~3cm、花序は無毛
4. 葉は倒卵形 南ベトナム海岸

* 鹿児島市吉野町帯迫2635-3 Yoshino-cho 2635-3, Kagoshima City, Japan

中井の分類では葉の上面の細脈が上面で凹入するかどうか、小枝の太さ、核果の大きさ、枝が上向するかどうか、葉形および鋸歯の有無、葉が枝の先端に集るかどうかが、花序が総状か散房状かである。

今 *R. indica* 全般についての変異を述べて見る。

1. 枝の角度 これは固有の性質で環境によって変化することは少ない。沖縄のホソバシヤリンバイの枝は急角度に出るので狭長い樹冠をつくる。これに反しマルバシヤリンバイはかなり広い角度で枝を出す。中井はマルバシヤリンバイの枝は上向または斜上しシヤリンバイは開出すると述べている。その他の種類は両者の中間位の角度で枝を出すようである。

葉柄の長さ 葉の割にながいのものは台湾のヒヒランシヤリンバイ、ホソバシヤリンバイなどで図で見るとインド支那にも長いものがある。

葉の厚さ シヤリンバイやホソバシヤリンバイの葉は厚いが、モッコクモドキでは薄い。しかし台湾のヒヒランシヤリンバイの葉はシヤリンバイと大差ない。

葉の表面の性質 葉の表面の網脈が凹入したものがある。この例として中井は *R. major* と *R. rugosa* をあげているが、台湾のアミバシヤリンバイもこの例である。

葉の全緑化 葉の全緑化はシヤリンバイ特に風衝地に生えている個体には往々見られ、アツバシヤリンバイ型のものに特に多く見られるようである。シヤリンバイ類の場合、全緑か全緑でないかの区別は分類上あまり役に立たない。

無毛化 往々花序、萼片の外表面などが無毛となることがある。中国浙江省の *R. gracilis* NAK., 福建省の *R. major* CARD., 台湾のヒヒランシヤリンバイ、海南島の H. HUANG 20443, 森 邦彦, s. n., 沖縄群島のオキナハシヤリンバイ型などすべてこれらの無毛型で、これらの特長はいずれも変種以上の価値はないと考える。

葉の大きさの変化 大陸のモッコクモドキは葉は小さく3cm内外のものが普通であるが海岸や島嶼になると大きなものが見られる。たとえば Vidal によるとインド支那には長さ16cm 幅5cm のものがあり、中国産の *R. major* CARD は葉は長さ7~15cm, 幅4~6cm あるが恐らく両者ともモッコクモドキの単なる極端形と考える。琉球の八重山群島にも葉の長さ12cm 位のものはある。

狭葉化 ほとんどのシヤリンバイ類に狭葉のものが見られ極端なものを見ると別種のように見える。しかし大抵の種類ではあらゆる中間型が見られるはずである。特に春季雨季を有しその時期には河川が氾濫するような山地の溪岸にはよく狭葉型のものが見られることは衆知のことである。*angustifolia*, *salicifolia*, *lanceolata* などの種名または変種名を有するものの多くはかかる溪流型であろう。METCALF は中国から6種の狭葉型を認めているが、これらはいずれも少数の極端標本に基くもので、その類の変異および生育環境については何等論及していない。沖縄のホソバシヤリンバイは内陸に生える狭葉型であるが、ときとしてかなり円い葉も出すことがある。中井は済州島からホソバシヤリンバイを報告しているが恐らく沖縄型のものでなくシヤリンバイの単なる狭葉品の誤認と考える。

広葉化 これも狭葉型と同様いずれのシヤリンバイの型にも見られる。これもマルバシ

ヤリンバイのように一定の分布区域を有するものと単なる極端型の場合がある。日本に栽培されているヒメシヤリンバイは *R. indica* の単なる広葉型に過ぎない。

花序 枝が細いモッコクモドキ型のものでは花序は総状または散房状となるが、小枝も太く、葉も大きい型、たとえばシヤリンバイなどでは横枝を出し円錐状となる。もちろんこれの間には色々の中間型がある。中井はモッコクモドキの花序は散房状としているが、かならずしも散房状ばかりでなく、総状花序のものもあり、勢のよい枝では円錐花序が普通である。しかし花序の大きさはシヤリンバイに比べると小さく長さ5 cm 以上になることはまれである。花序には通常銹色の密毛があるが無毛型のあることは前述の通りである。もちろんこの場合にも中間型のもが見られる。たとえば沖縄群馬産は無毛であるが八重山群馬産には中間型が多く見られる。

萼片 花の小さい、モッコクモドキでは萼片は線状三角形で長さ2~4 mm、幅1~2 mm のものが多いが、花の大きいシヤリンバイでは全体が大きく長さ4~6 mm、幅2~3 mm 程度のもが多い、もちろんかなりの変異がある。沖縄島以南の琉球列島のもは両者の中間位のもが多い。萼裂片の背面の毛の多少は花序の毛の場合と同様である。

花卉 花の小さい、モッコクモドキでは花卉は倒披針形で長さ6~8 mm のものが多いが、花の大きいシヤリンバイでは倒卵形で長さ1 cm 内外のもが多い。

果実 これは大体日本のシヤリンバイでは径1 cm 内外のもが多いが、モッコクモドキでは5~8 mm 位のもが普通である。しかし沖縄島のオキナワシヤリンバイ型のものにはモッコクモドキと大差ないものも往々見られる。

以上の点から考え日本・台湾には1種3変種1品種が分布することがわかった。以下各種類について述べて見たい。

モッコクモドキ (*R. indica* LINDL.)

代表的型では葉の鋸歯は粗く(すなわち鋸歯の数が少なく)、質はシヤリンバイより薄手のものが多く、下面網脈の分岐はシヤリンバイより粗い。小枝はやや細く、花はやや小形で花卉は倒披針状三角形~狭倒卵状菱形でやや鋭頭~鈍頭、萼片は小さく長さは通常5~8 mm である。中国大陸ではあまり変異はないが、インド支那、海南島、琉球列島、すなわち温暖多湿の海洋気候のところでは葉が大きくなり、花・果実も多少大きくなる傾向がある。しかしこの大葉型と小葉型の間にはあらゆる中間型があって多くの個体を見ると線を引くことは無理である。台湾のアミバシヤリンバイは正宗・清水は別種 *R. impressivena* MASAM. を用いたが葉の表面の脈が凹入するのは大陸の *R. major*, *R. rugosa* や海南島産 (F. C. How 73619) にも知られており、花序の花数も大した区別点とならないのでモッコクモドキに含めることにする。本種は中国大陸からインド支那・台湾・琉球(沖縄島以南)に分布し極めて変化が多い。

ヒイランシヤリンバイ (var. *hiiranensis* LI)

これは台湾の南部に産し、花序が無毛またはやや無毛で葉はシマシヤリンバイより厚く、小花梗は長さ1~1.5 cm ある (*indica* では1 cm 以下) ので他と区別できる。

ホンバシヤリンバイ (var. *liukuensis* KITAM.)

これは沖縄本島の内陸部だけに見られる小高木で、幹は通直、枝は鋭角にでるので細長い樹冠をつくる。葉は一般に倒披針形から倒披針状長楕円形であるが、ときとして倒卵状楕円形となるものもあり、かならずしも細長いとは限らない。葉柄は長さ1.5~2.5 cmで他の類より長い。花序には錆色の密毛があり、花、実は大きさシヤリンバイと大差ない。

マルバシヤリンバイ (var. *integerrima* KITAM.) HOOK. f. は *R. japonica* var. *integerrima* HOOK. f. を発表した際、異名として *R. integerrima* HOOK. & ARN. をあげているが、これを変種に組替えた形で発表していないので弧括に入れる basionym の命名者は (HOOK. & ARN.) でなく (HOOK. f.) としなければならない。そうしないと Hook. f. の発表したものはマルバシヤリンバイであり、HOOK. & ARN. の *integerrima* は小笠原産のシヤリンバイの単に鋸歯のない型であるので混乱を起すおそれがある。マルバシヤリンバイは北は山形、茨城から南は九州中部まで分布し、シヤリンバイに比べ丈は低くて小枝は太く横枝は横にはり、葉は倒卵形~円形で厚く普通のシヤリンバイの円葉型のものと多少異っている。北村博士はシヤリンバイと一緒にしたが一定の分布区域を有するので分けておいた方がよいと思う。

シヤリンバイ (var. *integerrima* f. *umbellata* HATS.)

これはモッコクモドキに比べ一般に葉は大きく厚く、鋸歯は(あれば)小さくて密、花は大きく花弁は倒卵形で鈍頭~円頭、長さ1 cm 内外で西南日本から奄美大島までと、台湾、中国東部に知られている。本種の葉の全縁の型はアツバシヤリンバイと称され小笠原、大東島、台湾(北部および紅頭嶼)などに分布するが、これは単なる極端品にすぎず一定の分布区域を有するわけではなく、その他の地域にも往々見られるものである。

最後に本研究に当たり台湾大学のシヤリンバイ類の標本全部を心よく貸与して下さった許建昌博士に心から感謝したい。

Rhaphiolepis indica (L.) LINDL. ex KER in Bot. Reg. 6 (1820) pl. 468 ; HAY., Icon. Pl. Formos. 1 (1911) 248 ; CARDOT in Lecomte, Fl. Gen. Indochine 2 (1920) 68 ; NAKAI in Journ. Arn. Arb. 5 (1924) 65 ; HANDEL MAZZ., Symb. Sin. 7 (1933) 475 ; MERR., Trans. Amer. Philos. Soc. n. ser. 24 (1935) 179 ; REHD., Biblog. (1949) 262 ; J. E. VIDAL in Aubréville, Fl. Cambodg., LAOS et VIET. 6 (1968) 84, pl. XIV, 1-8 ; C. KALKMANN in Blumea 21 (1973) 436 ; KUAN & YÜ, Fl. Reipubl. Popul. Sin. 36 (1974) 275-283

Crataegus indica L., Sp. Pl. ed. 2 (1762)

Rhaphiolepis rubra (LOUR.) LINDL., Collect. (1821) pl. 3 ; Nakai, l. c. 66, cum var. *foliosa* NAK. et var. *lanceolata* NAK.)

Rhaphiolepis umbellata var. *minor* MAK. in Bot. Mag. Tokyo 16 (1902) 14, syn. nov.

Rhaphiolepis indica var. *tashiroi* HAY., Enum. Pl. Formos. (1906) 129 ; NAKAI, l. c. 66 ; LI in Lloydia 14 (1952) 235 ; WOODY Fl. Taiwan (1963) 293 ; KANEHIRA, Formos. Trees rev. ed. (1936) 276, f. 227 ; KUAN & YU, l. c.

278, **syn. nov.**

Rhaphiolepis minor (MAK.) KOIDZ. in Bot. Mag. Tokyo **23** (1907) 171

Rhaphiolepis indica var. *latifolia* CARDOT in Lecomte, Not. Syst. **3** (1918)

380 -fide Vidal

Rhaphiolepis indica var. *mekongensis* CARDOT, l. c. -fide Vidal

Rhaphiolepis rubra var. *minor* (MAK.) NAKAI, l. c. 67

Rhaphiolepis indica var. *minor* (MAK.) KITAMURA, Acta Phytotax. et Geobot. **26** (1974) 2

Rhaphiolepis umbellata var. *hiiranensis* (KANEH.) HATUSIMA, Fl. Ryukyus rev. ed. (1975) 312, comb. nud., excl. basionym.

Rhaphiolepis impressivena MASAM. in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **30** (1940) 340, fig. ; SHIMIZU in Journ. Facult. Textile Sci. & Techn. Shinshu Univ. 36, ser. A. Biolog. **12** (1963) 37, syn. nov.

Rhaphiolepis indica var. *insularis* HATUSIMA, l. c. 844, nom. nud.

Distr. Ryukyus, Taiwan, S. China and Indo-China.

var. *hiiranensis* (KAN.) LI, l. c. 235 ; WOODY Fl. Taiwan, l. c. 293

Rhaphiolepis hiiranensis KANEHIRA, l. c. 276, f. 226

Distr. S. Taiwan.

var. *liukuensis* (KOIDZ.) KITAMURA, l. c. 2

Rhaphiolepis umbellata var. *liukuensis* KOIDZ., Consp. Ros. Jap. (1913) 73

Rhaphiolepis liukuensis (KOIDZ.) NAKAI, l. c. (1924) 63

Rhaphiolepis umbellata ssp. *liukuensis* (KOIDZ.) MASAM. & YANAGIDA in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **31** (1941) 274, comb. nud.

Rhaphiolepis indica ssp. *umbellata* var. *liukuensis* (KOIDZ.) HATUSIMA, l. c. 844, comb. nud.

Distr. Ryukyus (Isl. Okinawa)

var. *integerrima* (HOOK. f.) KITAMURA, l. c. 2 (sphalmate ut HOOK. & ARN.)

Rhaphiolepis japonica var. *integerrima* HOOK. f. in Bot. Mag. (1865) t, 5510, excl. Syn. *R. integerrima* HOOK. & ARN.

Rhaphiolepis ovata BRIOT in Rev. Hort. **1866** (1866) 292 ; **1870** (1870) 348, f. 52

Rhaphiolepis umbellata f. *integerrima* (HOOK. f.) REHD. in Mitt. Deutsch. Dendr. Ges. **1915** (24) (1916) 223

Rhaphiolepis umbellata f. *ovata* (BRIOT) SCHNEID., Illus. Handb. Laubholzk. **1** (1906) 706 ; Rehd. Bibliogr. (1949) 263

Rhaphiolepis mertensii var. *ovata* (BRIOT) NAKAI, Fl. Sylv. Korea. **6** (1916)

32, f. 9

Distr. Japan (middle Honsyu to northern Kyusyu)

f. *umbellata* (THUNB.) HATUSIMA, comb. nov.

Laurus umbellata THUNB., Fl. Jap. (1784) 175

Rhaphiolepis sieboldii BL., Bijdr. (1826) 1102

Rhaphiolepis integerrima HOOK. & ARN., Bot. Beechey's Voy. (1837-1840)

263 ; NAKAI, l. c. (1924) 62

Rhaphiolepis japonica S. & Z., Fl. Japon. 1 (1841) 162, t. 85

Rhaphiolepis mertensii S. & Z., l. c. 164 in nota

Rhaphiolepis umbellata (THUNB.) MAK. in Bot. Mag. Tokyo 16 (1902) 13 ;

SCHNEID., Illust. Handb. Laubholz. 1 (1906) 705, t. 390 h-i, 391 i

l. c. (1924) 62 ; REHD., l. c. (1949) 263 ; KALKMANN, l. c. 433 ; KUAN & YU, l. c. 280

Rhaphiolepis unbellata ssp. *integerrima* (HOOK. & ARN.) MASAMUNE & YANAGIHARA in l. c. (1941) 274, comb. nud.

Rhaphiolepis umbellata var. *integerrima* (HOOK. & ARN.) MASAMUNE, Enum. Trach. Ryukyu Insl. V (1955) 111

Rhaphiolepis indica ssp. *umbellata* (THUNB.) HATUSIMA in Mem. Fac. Agric. Kagoshima Univ. VII-2 (1970) 309

Distr. Bonins, S. W. Japan to Amami-Islands, Daito Islands, Taiwan (north. part and Isl. Botel Tobago) and E. China.
